

令和3年9月22日 市長定例記者会見 会見録

◆司会

それでは、ただ今から市長定例記者会見を始めさせていただきます。市長、よろしくお願いいたします。

◆市長

はい、よろしくお願いいたします。本日は発表項目として、市民の皆さんに大変関心の深いワクチン接種の予約状況についてであります。さっそく始めさせていただきます。ご案内のとおり、静岡市では11月7日までに希望される市民の方全員の接種完了を目指して、今月15日から12歳以上の皆さん全てを対象に予約をスタートいたしました。おかげさまで市民の皆さんに積極的に予約をいただき、市がシステム上に用意した8万5,000枠に対し、その日のうちに8万3,000を超える予約が入りました。そこで急ぎよ予約枠を増やし、20日までにおよそ1万5,000枠を追加しました。ご用意した枠は20日までにおよそ9万9,000枠であります。それに対し、そのうち現時点で9万6,000枠が埋まっている状況であります。今回ご用意した予約枠の数は12歳以上の市民の方の80%、51万人を接種目標として、これは集団免疫ができてパンデミックが抑えられるという、国の指針に応じた接種目標でありましたが、そこから職域接種が見込まれる人数と既に接種済み、予約済みの方なども人数を引いて算出したところ、想定よりも予約の人数が多くなっているという状況です。これには二つの可能性が考えられます。一つは接種希望者が想定よりも多くなる可能性があるということであります。静岡市では12歳以上の人口の81%、80%ですね、先ほども申し上げましたとおり51万人を目標にしておりましたが、21日時点の予約状況からは既に接種済みの方と合わせ12歳以上人口のおよそ85%、54万人の方がワクチンを接種されるということが推計できます。二つ目は職域接種を選ぶ市民の方が、県からいただいた情報よりも少ないという可能性であります。これはモデルナのワクチン供給が一時滞ったことによって、職域接種を受けることができる対象の方が、市の行政接種に流れてきているという可能性が考えられます。いずれにしても想定以上の市民の皆さんが、積極的にワクチンを接種したいと考えてくださっているということは、大変ありがたく心強いことでもあります。その思いに応えることが市としての責任であります。公民連携も必要です。今後とも11月7日を目指して医師会や薬剤師会、総合病院をはじめとする関係団体の皆さんと連携しながら、希望する市民の皆さん全員にワクチンの接種ができるよう対応してまいります。私からは以上です。

◆司会

それでは、ただ今の発表につきまして皆さまからご質問があればお受けしたいと思いま

す。いかがでしょうか。静岡新聞さん、お願いいたします。

◆静岡新聞

静岡新聞です。今のご説明ですと、かなり当初予約していたよりも接種希望する方が多いということですが、改めて11月7日に希望者完了というのは可能かどうかということをお聞かせください。

◆市長

はい。ワクチンの供給量次第でありますけれども、私ども静岡市の体制としてはそれができるというふうに見込んでおります。

◆静岡新聞

あと、もう1点、すいません。当初、若者がなかなか接種に対して後ろ向きといいますが、あまり希望しない方も多いというようなことも言われていましたけれども、静岡市の現状についてですね、若い方が接種を希望する傾向が強まっているというか、そういったことは見受けられるのでしょうか。

◆市長

私、今データに基づいてこのことについて答えることができませんけれども、少し実務的に補足してもらえればありがたいと思いますけれども、比較的私の肌感では若い方々も接種をしたいという気持ち強いのではないかな、というふうに受け止めております。

◆保健福祉長寿局長

補足をさせていただきます。保健福祉長寿局の杉山でございます。若い方、例えば12歳から19歳の方の接種の状況が21日時点で今16.79%、1回目が終わった方、このくらいの方ですね、それから20代、20歳から29歳の方が30.42%ぐらいの方が1回目を終えているという状況にあります。これから第4クールの中で接種が加速する中で、他の市町等を見ると多くても70%台ぐらいはいくのかな、というふうに思っておりますので、例えば高齢者の方が80%後半ぐらいの接種と比べれば低いのかなと思いますけれども、それなりに高い需要はあるのかな、というふうに思っております。以上です。

◆司会

その他いかがでしょうか。はい、テレビ静岡さん、お願いします。

◆テレビ静岡

テレビ静岡です。先ほど、増加して枠が今9万9,000ほどあり、そのうち9万6,000が

埋まっているというお話でしたけれども、これで取りあえずは収まるという認識であるのかというのが1点と、もし収まらなかった場合は、9万9,000より、もっとさらに枠を増大していく見通しなのか、またその方法というのがあれば教えてください。

◆市長

はい、これもワクチンの供給量との見合いでありますけれども、私どもは受け皿を作っていくということが責任でありますので、予約枠はいろんな工夫をしながら、必要に応じて拡充をそれぞれ続けていくつもりであります。

◆テレビ静岡

この、取りあえず9万9,000の現状の枠で、いわゆる85%で接種の希望者数というのは収まるという市としての認識ですか。

◆市長

これは少し実務的に答えてもらいますけれども、ご存じのとおりワクチンというのが国から県を通して市町に配付されるということでもあります。県全体の接種率を上げるためにも、静岡市をいかに上げていくかというのは大変重大であります。その点からも県と綿密に調整して、市民の期待に応えていきたいというふうに思っています。

◆保健福祉長寿局長

補足させていただきます。保健福祉長寿局杉山でございます。状況等を踏まえて、これから枠をどうするかということは考えていくことになると思いますけれども、ちょうどこの24日あるいは30日くらいから、県のほうのモデルナの大規模接種が始まったり、他の環境も動いてくるところ、その辺の状況も踏まえて判断していく必要があるかな、というふうに思っています。

◆テレビ静岡

ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。はい、第一テレビさん、お願いいたします。

◆静岡第一テレビ

静岡第一テレビです。市長が予約が想定よりも入った理由の中で、職域接種を選んだ人が県の情報提供より少なかったというお話をされていましたが、それは県からどういう情報があったのか、具体的に言うと、例えば職域接種これぐらいだったのだけ

ど、実際はこれだけ少ない人たちが職域接種を選んでいて、かなり行政接種に流れていくような、そういうデータのなものを教えていただければと思います。

#### ◆市長

県もざらっといろいろ試算をした上での数字を、市に示してくれたものだとは思いますが、実際にやってみると、いろいろ一人一人の市民の立場になってみると、ワクチンを接種するかどうか、職域で接種するべきかどうか、いろんな思いがあったかと思えます。その結果がこういうことになったのではないかな、というふうに推察されますが、少し補足を致します。

#### ◆保健福祉長寿局長

保健福祉長寿局の杉山です。県の職域接種のほうにワクチンを配給する量に対してどうかというふうな想定で、今はお話をさせていただきます。県のほうのワクチン接種を、職域接種するという配給がおおむね10万ぐらいの計画があるという状況です。直近の静岡市内においてモデルナ、静岡はモデルナは職域接種でしかしていないのですが、それが4万8,000人ぐらいというふうな数でございますので、その差というふうな状況かなと思えますけれども、数字的には打った、VRSに登録されたのが約4万8,000という状況でございます。

#### ◆静岡第一テレビ

あと、ごめんなさい、もう1点補足でお願いできればなと思うのですが、あまり各市町の接種率を比べてもというところもあるかもしれませんが、一応、昨日、知事会見で川勝知事が、「浜松は非常に進んでいるよ」という話をしていて、静岡とか焼津とか御殿場はちょっと遅れているという話を言及したところがあったのですけれど、特に政令市でよく浜松と静岡を比べる市民の方も多いと思うのですが、市長、市民に向けて、改めて、現在、浜松に比べるとやや遅くなっている要因と、これからの意気込みを含めて伺えますでしょうか。

#### ◆市長

まず、意気込みが、11月7日まで希望される方々に全部に接種していただけるような体制を、拡充していきたいというふうに思っております。接種率の差というのはいろんな要因が考えられると思います。その分析をした上で、「じゃあ、どうしたらこれから静岡市は静岡市の特性の中で接種率を上げていけるのか」ということを検討して、あの手この手を立案していきたいというふうに思っております。一般的に職域接種を大規模にやると接種率は上がります。やっぱり社員の皆さんがみんな接種するのに自分だけやらないというのは、はばかれる状況があるであろうと思います。当初学校でもそうい

う集団接種が国においても検討されましたが、それは同調圧力になるのではないかと  
いうことで取りやめになったのはご承知のとおりです。私どもは大企業数は少ないです  
ので、また、あるいは国民年金を受けている方、自営業の方、零細企業にお勤めの方、  
そういう市民の方々にちゃんと行政接種をあくまでも主軸にして接種を進めていこう  
という理念で進めてまいりました。その結果、当初予約が止まってしまった。これはシ  
ステム上の問題で、大変申し訳なかったのですが、それを挽回するべく今努力し  
ているのですが、それだけではなくていろいろな要因が、私たちの理念も相まって、  
今こういう接種率になっているのだろうというふうに思っております。これ、大局的に  
考えると日本全体の2回目の接種率がアメリカにようやく近づいてきました。そして、  
県が国の接種率に近づいてきました。静岡市がここで頑張らないといけないなというふ  
うに強く感じておりますが、どんな状況の市民の皆さまも誰一人置き去りにしなく、そ  
して接種していくというのが、静岡市の行政接種の考え方であるということを強く伝え  
させていただき、あまり行政の、自治体同士の競争をあおるということにはしたくない  
なというふうに思っております。

#### ◆静岡第一テレビ

確認で、すいません、しつこくて申し訳ないですが、では今の市長のお話は、別に競争  
はそんなにあおってもしょうがないと思うんですけど、浜松は確かに今の市長のお話  
だと、例えばスズキとかも含めて結構大きな企業さんも多いので、やっぱり職域接種も  
進んでいますが、静岡は土地柄そういう所でもなくて、それも要因の一つだったのでは  
ないかと今お考えであるということ。

#### ◆市長

少し補足してください。

#### ◆保健福祉長寿局長

保健福祉長寿局です。職域接種、先ほど数字的なものをお話しさせていただきましたけ  
れども、思ったよりもちょっと進んでいないのかなというふうな現状があるというところ  
です。あと、もう一つ大きな動きとしては、浜松市がファイザーによる住民接種とは  
別に、モデルナを使った住民接種会場を設けられたというところで、ちょうどそのタイ  
ミングが、モデルナの供給がどうなるか分からないというふうなタイミングでの開催だ  
ったかなと。静岡市において、住民接種はファイザーで、モデルナの供給も先が不安定  
だという状況の中だと、その時点では判断しなかったというところも、一つあるのかな  
というふうに思っております。職域接種は、現状としてはさっき言ったような数字の中  
で遂行しているというところがございます。

◆市長

モデルナのワクチンを民間企業からぜひ子どもたちに接種するように働き掛けてくれという心強い申し出もいただいておりますので、これから市の教育委員会はじめ関係機関にそのことを通知、PRして接種率、子どもたち、それは会場は学校ではなくて別に用意していただきますけれども、そんな呼びかけもする中で、子どもたちの接種率も高めていきたいというふうに努力しようと思っています。

◆司会

その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、幹事社質問に移りたいと思います。NHKさん、よろしく願いいたします。

◆NHK

はい、NHKです。感染状況ですけれども、県内含めて全国的に新規感染者数や病床使用率、減少しているようですが、仮に今月30日で緊急事態宣言が解除される場合、静岡市には切り替えでまん延防止等重点措置を適用するべきと思われるか、それとももう何もなしの状態に戻されるべきだと思われるか、ご認識をお聞かせください。

◆市長

現時点では今のところ重点措置に変更される可能性が高いのではないかな、と考えております。ご承知のとおり、重点措置の適用というのは最終的に政府が対象区域となる都道府県を決定し、県知事が要請対象となる市町を決定するという手続きを踏みます。例えば、今月13日から宮城県や岡山県が重点措置に変更されましたが、これは国が感染状況などを分析した上で区域を決定したものであります。このため、県内や静岡市の感染状況も踏まえ、今後決定されると思いますが、基本的には段階を経ていくと認識しておりますので、先ほど冒頭私が申し上げたとおりです。

◆NHK

つまり、県が静岡市をまん延防止適用するとしても、そこにあえて異を唱えることは考えていらっしゃるということですかね。

◆市長

はい。

◆NHK

分かりました。それと、今回緊急事態宣言が出される前ですね、8月8日に静岡市にまん延防止等重点措置が適用されるにあたって市長は、「静岡市では酒類の提供禁止や大

規模集客施設の時短営業については必要ない」と主張されました。今月で緊急事態宣言が解除されてそのまん延防止に行く場合、同じように酒類提供禁止は必要ないのではないかという主張をなさるかどうか、お聞かせください。

◆市長

結局のところ、静岡市のプリンシプルという指針は、この“いのち”と“くらし”の二つのLifeを、どうバランスを取りながら守っていくかというところになります。そういった原理原則の中でどう判断するかということが問題であります。その点から、酒類の提供の禁止とか時短の営業などは地域経済や市民生活に大きな影響を及ぼします。“くらし”も一方で取り戻していかなければなりません。このため、その要請の内容というのはこの静岡市の実情に合った、地域の実情に合った合理的なもの、バランスの取れたものとする必要があります。今後の感染状況を踏まえた上で国や県とも連携、議論して必要な情報収集も行った上で判断してまいりたいと考えています。

◆NHK

そういった要請を行うかどうかもち当然、県が最終的には先月のように判断されるということだと思いますが、市長のお考えとしては、静岡市の過去の感染動向を踏まえると酒類の提供禁止、大規模施設の時短営業はないほうがいいなというお考えはありますか。

◆市長

まず、今月の結果を出すということが第一だろうと思います。今月、緊急事態宣言下で、ちゃんと静岡市内の新規感染者をはじめとした数字を減らすことができるか、抑えることができるか、その結果によりますが、私とすると、秋の行楽シーズンもこれから始まっていく中で、経済の活性化、あるいは市民の皆さんの“くらし”を取り戻していくということについても、期待していきたいと思っています。視野に入れていきたいと思っています。

◆NHK

分かりました。ありがとうございます。最後に、緊急事態宣言解除や、11月7日でしたか、希望者全員のワクチン接種完了後の行動制限緩和について、市長がどう考えていらっしゃるかご見解をお聞かせください。

◆市長

これは国の実証実験の推移を見守っていきたいと思っています。10月から実証実験すると報告を受けておりますが、これは自治体によってやるかやらないか、参加の有無、判断が分かれております。静岡県は不参加ということでありまして。経済界は、経済を開

くということは期待するという主張がある一方、疫学の専門家や医療界は感染の再拡大を懸念するという、さまざまな意見があるのはご承知のとおりです。それを視野に入れながら、静岡市としては感染拡大を抑えつつ、一日も早く日常生活、普通の暮らしを取り戻すという方向性の下、行動制限の緩和に当たっては、この国の実証実験の結果や感染状況を見極めながら、緩和するタイミングが最も大事だと受け止めています。

◆NHK

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

その他、ただ今の幹事社質問に関連するご質問があればお受けしたいと思います。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、その他のご質問をお受けしたいと思います。中日新聞さん、お願いいたします。

◆中日新聞

中日新聞です。リニアの、JR東海の工事についてです。先日、大井川流域市町との会談があって、それぞれの首長から懸念の声が大きかったということですが、トンネル工事の場所でもある静岡市の市長としての受け止めというのは、どういうふうに考えていますか。

◆市長

首長とJR東海の金子社長、トップ同士の意見交換会が実現したということ自体が、大変意義深いことだと私は受け止めております。1回限りではなくて、これから回を重ねてほしいというふうに願っています。

◆中日新聞

静岡市のJR東海さんとの関連としては、北部の県道トンネルがあると思うのですが、その工事の進捗状況はどのようになっていますか。

◆市長

これもご承知のとおり、2月にJR東海とJVが契約を締結して以降、地元説明会を実施したり、早期の現場の着手に向けて利害関係機関との協議を随時行っているという状況であります。

◆中日新聞

その時、この2月の報道だと残土の処分場が決まっていなかったと思うのですが、その



決定はどうなっていますか。

◆市長

これもＪＲ東海と連携、協力して現地調査や地権者との協議を行っているところです。

◆中日新聞

分かりました。あと、その全体のＪＲ東海との協議の話ですが、この県道トンネルの協定から、静岡市と他の流域市町の足並みがそろっていないという声もあり、大井川流域の10市町と連携を求める声もあると思うのですが、その辺どういうふうに受け止めていますか。

◆市長

いつも言うことですがけれども、いろんな意見、いろんな立場が民主主義ですからあります。ただ、その違いが意見をぶつけ合う、対立しつつ、そして、やがては調和していくということが大事なのだろうというふうに思っています。そういう点ではこれからいろいろな対話を通じながら調和していき、それぞれの立場でこれで良かったという解決方法を、知恵を出しながらお互いの違いを乗り越えていきたいと、そのために静岡市も努力してまいりたいというふうに考えております。

◆中日新聞

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。ＳＢＳさん、お願いいたします。

◆ＳＢＳ

ＳＢＳです。緊急事態宣言が今月末までとなる中、静岡市、だいぶ感染者が少なくなってきました。まだまだ油断できないですし、ワクチンの完全接種、11月7日まで目標を持っている中で市長としては今のこの現状、まだまだ油断できないであるとか、思っていることがあればぜひ教えていただけないでしょうか。

◆市長

まだまだ油断できないと思います。やはり宣言下の中にあるという自覚は私ども行政職員も持っていますし、市民の方々にも夜回りをしながら呼び掛けているところです。ただ、その先には光を見いだしていきたいと思っております。もう少し辛抱のしどきであります。気持ちが切れそうになっている市民が多くいらっしゃるということは、十分承

知しております。3連休でも全国的にも外出する方が増えているという報道にも接しております。ただ、今月中はひとつ数字の上での結果を出さないと、今後経済を開くということにもさまざまな批判や不安があるでしょう。ですので、これはメリハリを利かせて決断していかなければならない。もう少し、緊急事態宣言下の静岡市においては油断せず、毎日感染拡大防止を呼び掛けてまいりたいというふうに思っています。“いのち”を守るということに最優先の価値を置きたいと思っています。

#### ◆司会

その他いかがでしょうか。NHKさん、お願いいたします。

#### ◆NHK

すいません。では、そこにクレーンも見えていますが、歴史博物館について伺います。市長が去年コロナを理由にいったん凍結した後、事業の再開を決定されて今議会に条例が提出されている案件です。62億円の建設費とは別に運営コストが毎年3億9,200万円かかるという数字を、歴史文化課がまとめたと伺っています。施設費で1億4,600万円、人件費で1億600万円、事業費で6,500万円という積み上げされているようですが、一方で入館料収入が、開館直後で来館者が最も多いと見込まれる初年度でも7,000万円程度と、施設経営という点では市の持ち出しが随分大きくなるようですねけれども、このコロナ禍の財政支出として、今、急いでやるべきものだったのかどうか、改めて説明をお願いします。

#### ◆市長

急いでやるということではなくて、これは2次総の時から10年間をかけて着々と市民の皆さんにもご意見もいただきながら整備を進めているものであります。そして、ご指摘の博物館の入館料についてであります。そもそもこの施設は教育学術施設であり、教育補完施設でありますので、大前提として市の負担が75%、受益者の負担が25%として算出しております。当然ながら収入は運営費よりも少なくなり、博物館の運営はビジネスとして黒字化できるものではないというふうに理解しております。

私、1期目の時に図書館も指定管理者の導入を進めていったことに対して異議申し立てをして、直営という決断したことがあります。つまり、図書館はビジネスではないからです。当時流行で民間企業に、例えば、ツタヤさんに図書館を委ねるというようなことがありましたけれども、私ども静岡市は文化教育施設として図書館は文化行政を計るバロメーターだという観点で、「直営で」という判断をしました。博物館も同じ性質の教育・社会施設だというふうに私は認識しております。このような教育のための投資でありますので、コロナ禍で子どもたちも苦しい思いをしている今だからこそ、将来、静岡の歴史を勉強する地域学習の場として必要なものだと考えておりますので、ご理解をよ

ろしくお願いいたします。

◆NHK

ごめんなさい。今、ビジネスではないから直営と判断したというお話ありましたけれども、運営主体について言えば市長は東静岡のアリーナについても「公共サービスの運営に民間がコミットメントしてもらうのが新しい公共経営だ」と力説されていたのを覚えていますが、どうして今回の歴史博物館については指定管理者、民間へ公募しないまま、ましてや博物館経験の運営がない市の文化振興財団をご指名で選定したのでしょうか。

◆市長

ここは重要な論点だろうと思います。やはり公共施設もその施設の目的、理念によって違った運営方法を選択すべきだというふうに思っております。アリーナはこれからスポーツ産業やエンターテインメント産業を、民間企業のノウハウで稼働率を高める努力をしてくれれば採算性、ビジネスとしての事業性が取れるという判断をしたので、PFI等々の民間投資を促す運営方法を模索しております。

それに対して、この歴史文化施設、これは静岡駅前には「静岡音楽館A O I」とか「静岡科学館る・く・る」がございますが、同じカテゴリーの教育施設であり社会教育施設であります。「る・く・る」も過去3年間、約2億の赤字補填が行われております。A O I、音楽館も同じぐらい、2億ですね。「静岡市美術館」についても2億5,000万ぐらいになります。そういった中で静岡市の文化行政、首都圏や東京に負けないような、こういう文化施設というものを、ここに立地しているわけでありまして。そういった点で、東京に行かなくても質の高い音楽や絵画を楽しめる、あるいは子どものうちから「る・く・る」に行って理科に関心を持つ、科学の不思議さにすごく学習意欲を高めて、そして将来科学者になると、そういう投資になっていけば、これはプライスレスの価値があるというのが私の考え方であります。事実、アンケート調査をしますと、例えば、静岡県中部圏、5市2町からたくさんこの科学館や美術館にいらっしゃっている方がおりますけれども、「静岡市はいいな」と、駅前にこういうレベルの文化施設があつてうらやましい、というアンケートも頂いております。ですので、そういった市の話だけではなくて県中部地域の中核都市として、こういう機能を備えているということは必要だというふうに私は思っています。

◆NHK

分かりました。それと、今回、歴史博物館、年間50万人が初年度来館して7,000万円の入館料収入があるという積算は、令和元年度以前、つまりコロナ禍前の静岡市美術館や、あと東御門・巽櫓（たつみやぐら）ですか、そういった施設の入場者数を基にはじ

いたと伺っております。これはつまり、静岡市は令和4年度中にはコロナは収束して5年度からは元通りになるという見通しで、行政運営をされているのでしょうか。

◆市長

その点はこれから議論を進めていかなければならないと思います。ご指摘のとおり、現時点では、施設の入館者は感染拡大が収まった後を見据えた数字として試算しております。コロナの収束というのはまだ見通せないというのが現実ですので、今後の状況によってスモールスタートから少しずつ入館者を増やしていく、という選択があり得ると考えております。一方、経済界からは、「徳川家康公の400周年事業で観光交流施設としての機能も果たしてほしいよ」ということも期待されております。ですので、インバウンドの受け皿になる、あるいはリピーターを増やしていくという経営努力も、最低限必要であろうかというふうに思っています。これからのことですけれども、感染が収まった後の次のステップとして、人々の文化活動や交流、あるいはにぎわいの創出、地域経済の活性化、この全てを満たすような施設となるよう長期的な視点を持ちつつ、今後、開館に向けて準備を進めてまいります。

◆NHK

長くなってごめんなさいね。スモールスタートもあり得るということですが、となるとますます市の持ち出しが増えるという、入館料収入でますます回収できなくなるということになると思いますけれど、いずれにしろこの4億円という毎年のランニングコストを、まだ、今回、条例が今議会に提出されているにもかかわらず、市議会各会派にもこの4億円の数字、示されてないと聞いています。市長、東静岡のアリーナの全体事業費40億円についても、今年7月でしたか、私どもが報道してからこの会見で聞いて初めて認めるという流れだったのですけれど、どうして今回もまた報道されるまでこの数字を表に出されないのか、お聞かせいただけますか。

◆市長

あんまり私そういう認識は持っていなかったのですけれども。

◆NHK

特に数字の発表ですとかホームページの掲載がなかったのは事実だと思います。あるいは議会の説明…。

◆市長

またこれ、後ほどお答えいたします。実務的に何か答えられることがあったらお願いいたします。

◆NHK

すいません。こちらは後で事務方に伺います。これで博物館について最後です。博物館の3階の中央の展示ですね、昭和36年の頃の静岡の街並みを再現した模型になるという話ですけれども、昭和36年にした理由いろいろあると思うのですが、市長の生まれた年ですよ。これ作る方針決める時に市長は、いくら何でも自分の生まれた年の街並みということだと、私物化という疑いがかかってしまうから、36年というのはやめてほしいというような意見、特におっしゃらなかったのでしょうか。

◆市長

いや、初めて聞きました。そうなのですか。昭和36年ということも私あまり意識していませんでした。

◆NHK

市民に当時の風景写真の公募までされていますけれども。

◆市長

いやいや、申し訳ありません。私が昭和36年にしろとか、そういうことを言ったことは一度もありません。全くそれは誤解です。それはちょっと名誉に関わることだから、そんなことを私がするわけがない。

◆NHK

結果的にそういう年になっているので、そういうふうな見方をする方が現にいらっしゃるという状況はあります。

◆市長

本当に市民のための施設だと思って全力を尽くしておりますので、市長だからどうのこのなんてことは一切考えていません。ご理解いただきたいと思います。

◆NHK

分かりました。この場ではひとまず結構です。

◆司会

その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、以上で本日の定例記者会見を終了させていただきます。次回は10月12日の予定となります。本日はありがとうございました。